

三井住友ファイナンス&リース

以前からある営業活動用の独自開発アプリに、検収立ち会い登録機能を加えた。事務員はシステムに手打ち入力したり、画像登録したりといった煩わしい作業からほぼ解放された。より付加価値の高い仕事に集中できる環

年間1000時間の境を整えた。業務時間削減は検収立ち会い登録RPAで実現した。検収とは、納を集約するRPAでか品されたリース商材がなえた。リースでは初正しい仕様で正しく設めての取引前に与信情報置されたかなどを確認報をはじめとした顧客する作業。立ち会う情報を集め、初期判定業担当者が、モバイルするプロセスがある。端末のアプリケーショ関連する情報は社内（応用ソフト）上でさまざまなシステムに商材などの写真を撮る点在しており、各所かと、画像や位置情報、ら集めてくるのが手間顧客データ、契約内容だった。表計算ソフトなど関連情報一式が基幹システムに自動登録される。

「業務時間を年間1000時間削減」顧客情報の収集時間を年間800時間削減」。三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は、2019年に全社展開したRPA(ソフトウェアロボットによる業務自動化)で目覚ましい成果を上げている。ノンバンクにあつて、製造業の代表的な経営・品質管理手法「シックスシグマ」の思想を軸とする独自性が際立つ。(編集委員・六笠友和)



RPA 年1000時間削減



製造業的手法で効率化

ウエアを改善し、RPAと組み合わすなどで自動化、効率化を図れタル変革(DX)を主

導するのは、イノベティクスプロジェクトチーム(PJT)だ。イノベティクスシグマ経営の代表企業であり、シックスシグマは日本GEの金融部門でも徹底されている。SMFLでのRPAの取り組みは、製造業統括者は「チャンネル的だと言え。業務の課題把握、改善、改善の横展開を繰り返す。PTリーダーの川名洋平氏はRPAの導入に当たり、「まず当該業務が真に必要であるかの見極めが大切だ」と指摘する。RPAを単に今ある業務に適用するのではなく、まず残すべき業務、なくすべき業務を仕分ける棚卸しを前提とする。RPAは残すべき業務の改善手法の一つに過ぎず、最善策が他にあればそちらを採用する。全社レベルで推進するためシックスシグマの階層制度を取り入れる。プロジェクト

①RPA導入前に業務改善に取り組み②検収立ち会い登録RPAで年間1000時間の業務時間削減を実現

検収立合		閉じる
検収立合詳細	添付資料一覧	物件一覧
顧客取引先名	ABCDEF株式会社	
契約番号	123456789	
検収予定日	2019年06月14日	
当社営業担当者	三井 遼人	
当社営業担当部	東京営業部	
当社立合実施者	三井 遼人	
当社立合実施者電話番号*	0901234567	
契約先立合者* *氏名/社名・部署・役職	住友 三夫	
契約先立合者電話番号*	03-1234-5678	
検収立合実施日時*	2019年06月06日 16:36	
物件の構成と設置場所が契約書等と合致*	<input checked="" type="checkbox"/>	
物件が正常に稼働*	<input checked="" type="checkbox"/>	
保存	申請	取消